

松本和将の

ルネスクラシックシリーズ Vol.10

シリーズ第4回
フランス編

世界音楽遺産

program

ラヴェル:夜のカスパー

ソナチネ、水の戯れ
道化師の朝の歌

フランク:プレリュード

コラール
フーガ

ドビュッシー:喜びの島

ラモー:6つのドゥーヴルとガヴネット

2019

11/1(金)

開演19:00(開場18:30)

岡山ルネスホール

(おかやま旧日銀ホール)

岡山市北区内山下1-6-20

—いまだかつて聴いたことのない響き—

Kazumasa Matsumoto World Music Heritage 4 France



松本和将の

世界音楽遺産

シリーズ第4回 フランス編

—いまだかつて聴いたことのない響き—

2019年11月1日(金)

開演19:00(開場18:30)

岡山ルネスホール

(おかやま旧日銀ホール)

岡山市北区内山下1-6-20



Renaiss Hall

チケット(全席自由)

一般前売▶3,500円 / 一般当日▶4,000円 / ルネスメイト▶3,000円

学生前売▶2,000円 / 学生当日▶2,500円

問い合わせ&チケット取り扱い

- ルネスホールtel.086-225-3003
- ぎんざやtel.086-222-3244
- インディスクtel.086-422-1457
- アルスクらしきチケットセンターtel.086-434-0010
- 岡山シンフォニーホールチケットセンターtel.086-234-2010
- アルテゾーロ・クラシカtel.086-224-6123

主催：松本和将ピアノリサイタル実行委員会 佐々木 tel.080-5624-1287
ルネスクラシック実行委員会

共催：ルネスホール(NPO法人バンクオブアーツ岡山)

レクチャー・ビデオで事前に理解を深めよう♪



事前に松本和将本人による演奏曲解説DVDをお手元にお届けします

代金 500円(発送代を含みます)

こちらからお申込み下さい。 <https://form.run/@kaz-dvd>



コンサート会場でも販売します。お取り置きご希望の方もお申込みフォームからご連絡ください。

世界音楽遺産なんだからフランス物も入れないといけないよ」と言われまして、それでフランス物も入れることにしたと(笑)

(聞き手：松本和将世界音楽遺産実行委員S) 松本和将の世界音楽遺産、いよいよ第4回ですね。今回は「フランス編」ということですが、松本さんがフランス物というのは珍しい気がします。

松本：そうですね。実はこれには裏話があるんです。マネージャーから「松本くんはほっといたらドイツ物ばかりになっちゃうけど、世界音楽遺産なんだからフランス物も入れないといけないよ」と言われまして、それでフランス物も入れることにしたと(笑)。

S：なんと!ではイヤイヤながらというわけでしょうか。

松本：いえ、決してそういうわけではなくて、今までも意外と弾いてきてるんですよ。ラヴェルなんかはもともと結構好きだし、またフランクは最も敬愛する作曲家の1人です。

S：そうでしたか。どうしても松本さんという「ベートーヴェンソナタ全曲」やブラームス、そしてロシア物というイメージが強くなってしまっていますが、いつ頃弾かれてたんでしょうか?

松本：フランクの「プレリュード、コラールそしてフーガ」はエリザベトコンクールで、「夜のガスパール」はブゾーニコンクールと人生の大事な場面で弾いてますし、その時期のリサイタルでも何度か弾いています。

S：その2曲を弾くようになったきっかけなどはあるんでしょうか?

松本：やはり師バスカル・ドゥヴァイヨンの影響は大きいと思います。どちらも彼の得意とする曲です。スカルポのレッスンを受けた時に、「これがスカルポだ」と言って隣で弾いてくださったほんの数小節の左手のあの恐ろしいほどの緊張感は今でも忘れられません。

S：たった数小節でスカルポを感じさせるとはすごいですね。フランクに関してはいかがでしょうか?

松本：これはものすごく大きな「祈り」の物語だと思います。祈りはここでは救いにつながっていません。苦難があり懊悔をして最後には大きな光に包まれて救われる。僕はキリスト教ではないですが、神様が本当にそこにいるような敬虔な気持ちになります。

S：ところで、フランス物というときはドビュッシーの名前が挙がると思います。ドビュッシーの比率が少ないですね。

松本：はい。ドビュッシーは苦手です(笑)。

S：また爆弾発言を(笑)。では今回は今まで苦手としてきたドビュッシーの魅力に気づいたというわけですね。

松本：えっと、正確にいうとドビュッシーは好きではない、ということですね(笑)。しかし「喜びの島」は好きです。本当はバランスを考えてもう1,2曲ドビュッシーを入れたかったんですが、やはりラヴェルが弾きたくて...

S：ドビュッシーとラヴェルと言うとなんとなく似た作曲家と思う方も多いかと思いますが、松本さんにとって2人の作曲家の違いは?

松本：これはもう、全然違いますね!なんとなく響きが似てる瞬間があるというだけで、何もかも違うと言ってもいいくらい。ドビュッシーはその時その時の風景を楽しむ感じなのに対して、ラヴェルは最後にたどり着く場所が大事ということかな。ドビュッシーの曲を聴くと「ああ、いろんな景色が見られたなあ」と思う、ラヴェルは「なんと、最後にこうなるのか!」と思う。ラヴェルって屈折してますよね。喜びを爆発させるように見えてどこか斜に構えてたり、実は不協和音を粉れ込ませてたり、悲しみも孤独感も見せてるようで多分ホントのところは見せてない。そういうところが余計切なく感じさせるのかもしれないですね。

幼い頃よりピアノに目覚め、高校在学中に「ホロヴィッツ国際ピアノコンクール」第3位など、国内外のコンクールで上位入賞。1998年19歳で「第67回日本音楽コンクール」優勝。併せて増沢賞はじめ、全賞を受賞。2001年ブゾーニ国際ピアノコンクール第4位、2003年エリザベト王妃国際音楽コンクール第5位入賞。

これまでにブラハ交響楽団、ブラハフィル、ベルギー国立オーケストラ、読売日響、日本フィル、新日本フィル、東京交響楽団、東京フィルなど、多くのオーケストラと共演。2009年から3年連続のオールショパンプログラム全国ツアーを行い、2016年より「松本和将の世界音楽遺産」と名付けたリサイタルシリーズを開始。

室内楽にも積極的に取り組み、イザベル・ファウスト、前橋汀子、宮本文昭など多くの名演奏家と共演。2010年より上里はな子、向井航とピアノトリオを結成し、2012年には東京、京都、広島を始めとする6都市で全国ツアーを行い、2016年には京都フィルとベートーヴェンの三重協奏曲を共演。

これまでに2枚のレコード芸術特選盤(「展覧会の絵」「後期ロマン派名曲集」)を含む20枚のCDをリリース。

東京芸術大学非常勤講師(2008~2012)、くらしき作陽大学特任准教授、名古屋音大ピアノ演奏家コース客員准教授として、後進の指導にもあたっている。

公式HP <http://www.kaz-matsumoto.com>

公式ブログ <http://kaz-matsumoto.cocolog-nifty.com/blog/>

Twitter @kazmatsuki Facebook @pianist.kaz



MATSUMOTO KAZUMASA
松本和将